

経営比較分析表（平成30年度決算）

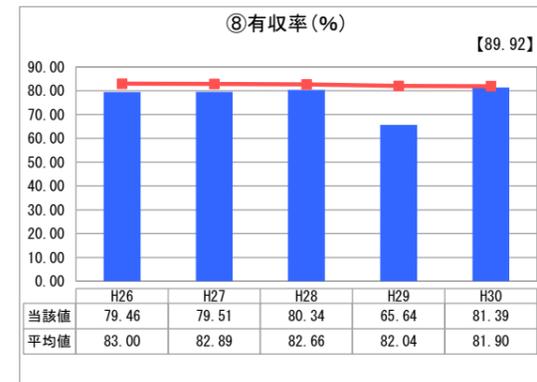
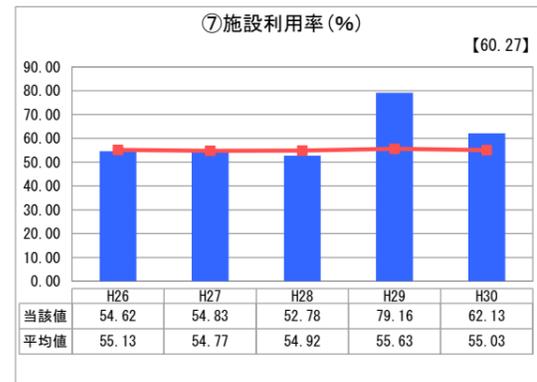
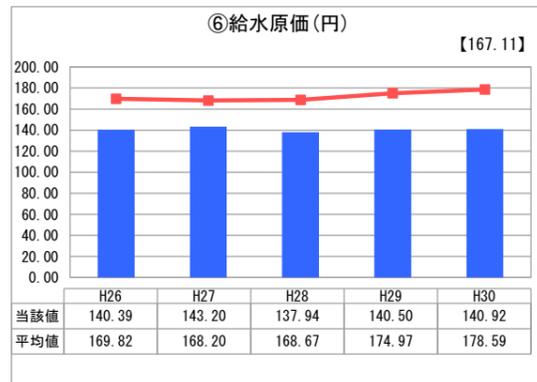
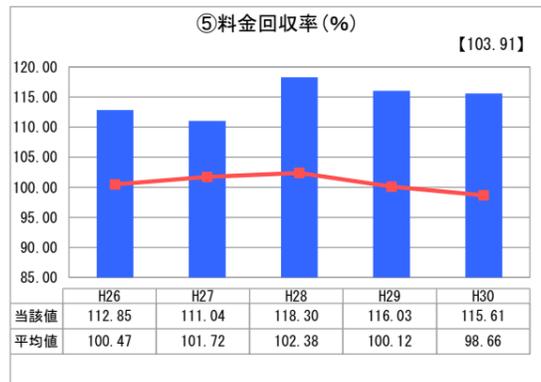
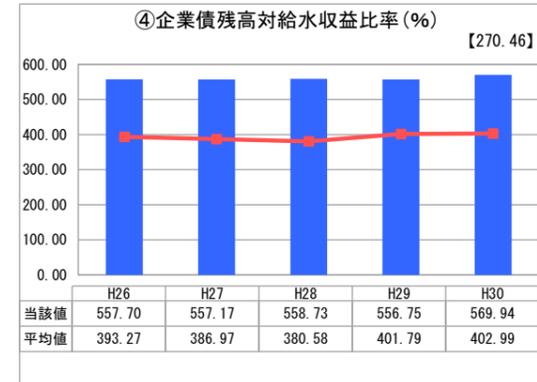
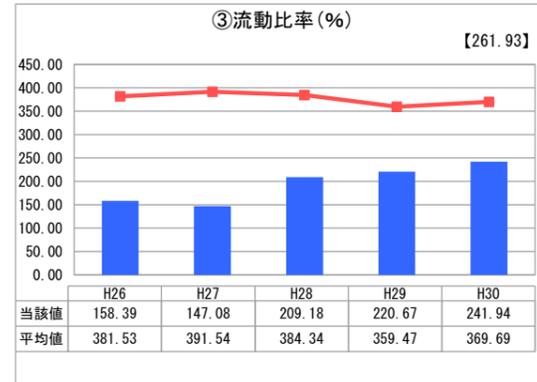
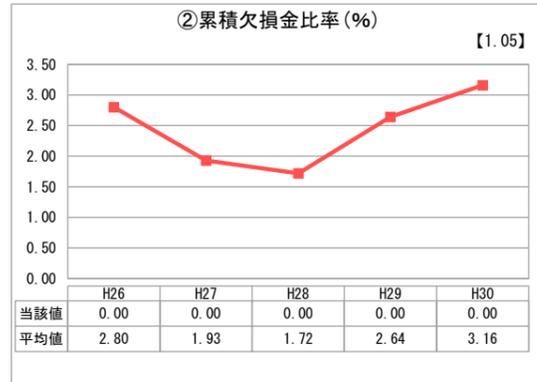
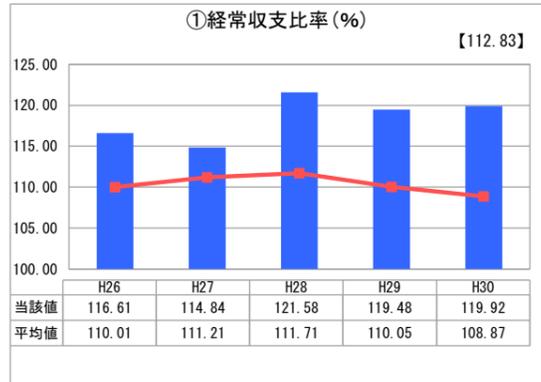
高知県 須崎市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	民間企業出身
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	46.39	87.38	2,700	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,026	135.34	162.75
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
18,910	25.42	743.90

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率、料金回収率ともに100%以上であり、両指標は類似団体平均及び全国平均を上回っている。経常費用を経常収益で賄っており、また給水にかかる費用を給水収益で賄えていることを示しており、経営の健全性を維持している。

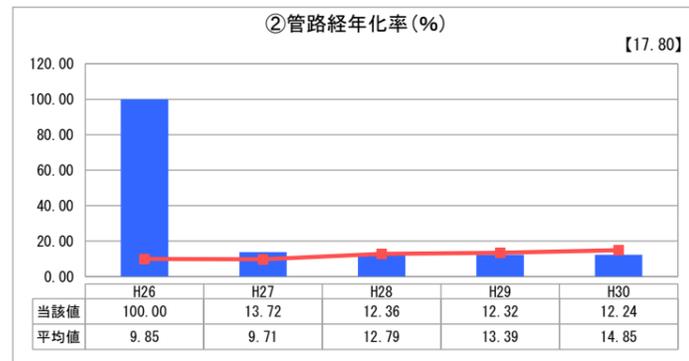
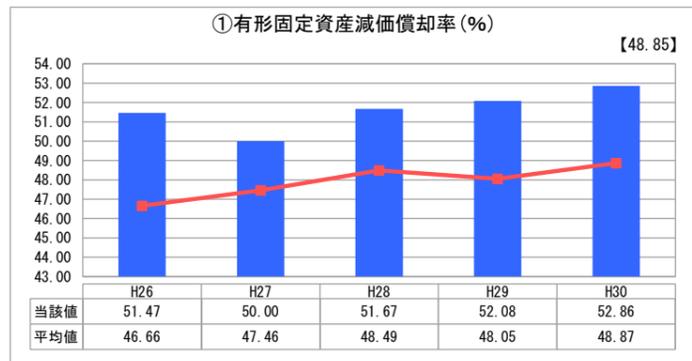
しかし、類似団体平均と比較して企業債残高対給水収益比率が高く、有収率がやや低い。なお、H29の有収率が大幅に低い原因は、大量漏水によるものであり、H30年度には回復している。有収率対策としては、管路更新や漏水箇所の修繕に対する費用を確保することが必要だが、債務残高等とのバランスに注意して運営していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

県内で2番目に古い水道という歴史を持つがゆえに、水道施設の多くが老朽化しており、有形固定資産減価償却率が類似団体平均及び全国平均より高くなっている。管路経年比率（耐用年数を超えた管路の割合）は類似団体平均をやや下回っており、管路更新率（当年度の更新管路の割合）はH30年度に全国平均値並みとなったものの、更新のペースを早める必要がある状況は続いているといえる。

なお、H26年の管路経年比率は実際には以下のとおりである。
H26：12.53%

2. 老朽化の状況



全体総括

人口減少に伴い給水収益が減少傾向にあるなか、老朽施設の更新や耐震化を行っていく必要がある。令和元年度に策定予定である経営戦略による計画を基に、健全な経営の維持と効率的な更新投資を行っていく必要がある。